

令和5年度 多摩市立永山小学校 学校評価書

| 学校教育目標 | |
|---|-------------------------------------|
| 人間尊重の精神に根差し、主体的に考え、共に実行する共生社会を目指し、心豊かでたくましい人間を育成する。 【 ◎学び合い(重点) ○心豊かに ○たくましく 】 | |
| 目指す学校像(学校経営ビジョン) | |
| 子供たち一人一人の成長を共に支え、共に喜び合える学校 | |
| 目指す子供像 | 目指す教師像 |
| ・目標をもち、仲間と共に考え、未来に希望をもってがんばる子 ・合言葉「ゴール(Goal)」「フレンド(Friend)」「トライ(Try)」 | ・子供たちの人権や感性を尊重し、共に成長を喜び合う同僚性の高い教師集団 |

Ⅰ 自己評価結果と学校関係者評価の状況

(1) 確かな学力の育成

| 重点目標 | ○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ○ESDの充実を図り、児童が主体的に課題解決に向かう姿勢を育成する | | | |
|---|--|---|---------|--|
| 評価項目 (目標とする 成果・指標 %) | 自己評価 | | 学校関係者評価 | |
| | 評語 | 現状の分析と改善策 | 評語 | 学校運営連絡協議会委員の意見 |
| 「自分の考えを書くことができる」 肯定的評価70%以上 | 3 | 児童回答74%ができた。校内研究で「書きたい児童を育てる」ために、発達段階に応じた工夫をしたことが効果的だった。 | A | ・自分の考えが言える子供が多い一方、自分の意志を伝えることが苦手な子もいるので、様々な経験を増やし学んでいくことが必要。 |
| 一人一台のタブレットを活用し、考えの交流や自己のふりかえりに生かした児童が85%以上。 | 3 | 児童回答87%ができた。一人一台タブレットでの学習も3年目に入り、児童にとって考えの共有をする活動が習慣化してきた結果である。 | A | ・タブレットの活用はよくできている。 |
| 生活や地域に関心をもち課題解決に向けて主体的に考える児童が85%以上。(ESDの視点) | 3 | 児童回答82%ができた。生活科や総合的な学習の時間に、地域に根差した学習活動を積み重ねてきたことが効果的だった。 | A | ・生活や地域に関心をもち、できる範囲で問題解決に取り組むことは将来、社会の一員として心強い。 |
| 評価のまとめ | 「書くこと」の校内研究を通して、自分の考えを書くことができる児童が増えた。自分の意志を伝えるためにも、より体験的な学習を重視し、言葉の力の育成を図る。一人一台端末も有効活用し、生活や地域に根差した ESD の視点での取組を継続する。 | | | |

【評語について】

| 自己評価 | | | 学校関係者評価 | |
|------|-----------|-------------|---------|-----------|
| 評語 | 達成状況 | 成果指標 | 評語 | 自己評価の適切さ |
| 4 | 申し分なく達成した | 90%以上～100% | A | 適切である |
| 3 | おおむね達成した | 70%以上～90%未満 | B | おおむね適切である |
| 2 | やや下回った | 40%以上～70%未満 | C | 適切でない |
| 1 | 大きく下回った | 40%未満 | D | 評価は困難である |

(2) 豊かな心の育成

| 重点目標 | ○自他を大切にできる心を育成する ○様々な場での交流・共同学習を進め、特別支援教育の充実を図る | | | |
|---|---|--|---------|--|
| 評価項目 (目標とする 成果・指標 %) | 自己評価 | | 学校関係者評価 | |
| | 評語 | 現状の分析と改善策 | 評語 | 学校運営連絡協議会委員の意見 |
| 「たて割活動」「クラブ・委員会」「わかき学級との交流・共同学習」を行う中で、自分や他者の良い面に気付ける児童が80%以上。 | 3 | 他者と関わり、生活をよくしようと考える生活できたと感じる児童は、全体の83%であった。たて割班の活用方法を広げること、より多くの場面で自他の良さに気付ける機会を作っていく。 | A | ・児童館でも男女隔たりなく、他学年も一緒に遊ぶ姿が見られる。 ・からかいや悪ふざけがエスカレートしてトラブルになる場面を多々見かける。 |
| いじめ認知への感度アップと、早期&適切な対応で「重大事案ゼロ」を目指す。 (生活指導) | 3 | 児童の様子から異変を感じたら、すぐに聞き取る。アンケートのみでなく普段の観察も大切にしたい。 | B | ・不登校が懸念される現在、すすんで学校に登校する児童が多いことはよいことだが、保護者や地域と連携して、子供たちの観察の見逃しがないようにしたい。 |
| 学級の合理的配慮や UD 化を進め、居心地がよいと感じる児童が85%以上。 | 3 | 学級の居心地が良いと感じる児童は、児童へのアンケート結果では87%であった。UD 化された現状を維持し、より推進していく。 | A | |
| 評価のまとめ | 特別活動での高学年児童のリーダー性や運動会(ながりんピック)、音楽会(ながおんフェス)に主体的に関わる児童が多かった。交流・共同学習を通して互いを尊重する面が随所に見られた。いじめ未然防止、早期解決、不登校対応など、児童に寄り添った細やかな対応を心掛けた。UD 化は今後も整備していく。 | | | |

(3) 健やかな体の育成

| 重点目標 | ○健康な生活習慣を確立させ、健やかな体と心を育む ○災害時に自分の命を自ら守ろうとする力を育成する | | | |
|--|---|---|---------|--|
| 評価項目 (目標とする 成果・指標 %) | 自己評価 | | 学校関係者評価 | |
| | 評語 | 現状の分析と改善策 | 評語 | 学校運営連絡協議会委員の意見 |
| 「早寝・早起き・朝ごはん・朝トイレ」などの基本的な生活習慣が身に付いている児童85%以上。 | 3 | 約80%ができていると回答。今後も基本的な生活習慣を理解させ、定着させることが生涯にわたって大切であることを指導していく。 | B | ・「早寝・早起き・朝ごはん・朝トイレ」は各家庭での協力と努力が必要。 ・健康によい習慣を学校で付けられればよいが、指導は大変だと思う。 |
| 自ら手洗いをし、給食をしっかり食べ、外遊びをする児童が85%以上 | 3 | 83%ができていると回答。意識して取り組んでいる様子が伺える。家庭の理解や協力を得ながら進めていく。 | B | ・子供たちの防犯意識は高いと思う。 |
| 避難訓練、安全指導の徹底(教員)、目標に対しての評価が「できた」という児童が85%以上。 (生活指導) | 4 | 児童回答95%が出来ていると捉えている。毎月の安全指導を今後もさらに充実、徹底したい。 | A | ・年間を通して防火・防犯意識の向上のための具体的な学習と訓練に非常に力を入れている。 |
| 評価のまとめ | 基本的な生活習慣は家庭と協力し、保健・生活指導、食育の面などの多方面からも理解と定着を図る。いろいろな感染症予防、体力増進のためにも手洗いや外遊びを喚起していく。休み時間等でも避難訓練での速やかな避難はできている。地域防災訓練への6年生の参加も継続し、自分たちにできることを考えさせる。 | | | |

(4) 家庭や地域との連携

| | | | |
|---|---|---|--|
| 重点目標 | ○「チーム永山・コミュニティスクール」として地域との連携を進める ○保護者・地域との情報共有に努め、共同的な学校運営を進めていく | | |
| 評価項目 (目標とする 成果・指標 %) | 自己評価 | | 学校関係者評価 |
| | 評語 | 現状の分析と改善策 | 評語 学校運営連絡協議会委員 の意見 |
| お便り、HP 掲載、メール、個人面談、支援会議等を通して家庭・地域との信頼関係を築く。 | 3 | 保護者に丁寧な説明を行うことで、課題解決に向けて前進できた。 | A ・LINE 登録をしていないため退時の情報が伝わらなかった。 ・地域にはまだまだアイデアをお持ちの人材がいると思うので、学校と協力して活用させていただき、学校を含む地域力の向上につながるとよい。 |
| 学校運営協議会を年4回開催し、学校の現状と課題を共有し、解決のための取組を協議する。 | 3 | 年間4回、現状や課題、具体的な取組を紙面や映像等で説明できた。今後も継続して取り組む。 | A ・保護者・地域共に学校やPTA のアナウンスに関心をもって見聞きしている人ばかりではないようだ。 ・一部の意見に流されず、協議し合意していくことが大切。 ・防犯プレートの作成も最初の思いとは全く違うような状態になったのが残念。 |
| 児童の安全確保のため多摩永山中学校区 PTA 青少協と連携し、防犯プレート等を作り、地域に広める。今年度中に100%実施を目指す。 | 3 | 瓜生小学校と連携して、PTA が中心となって青少協と連携しながら防犯プレートの作成を決定できた。配布について今後も考える。 | B |
| 評価のまとめ | 子供主体の学校行事への変換について、保護者や地域に周知し、ご理解いただき、多くの称賛や励ましをいただいた。児童の生き生きとした姿を常に発信できた。学校運営協議会に管理職の他の教員が参加し、教育活動を紹介できたのは成果と言える。 | | |

2 次年度に向けた学校経営の方向性、課題等

| |
|---|
| <p>【方向性】</p> <p>主体的な学びを推進するために</p> <p>①教員個々の課題に即した校内研究のスタイルへの変換(少人数グループを中心にした校内研究)</p> <p>②多摩市子若条例の下、児童が創る学校行事への変換(ながリンピック、展示的な行事)</p> <p>③「みる・きく・話す・考える・感じる」体験的な学習を重視</p> <p>居場所がある学校へ</p> <p>①不登校児童への個別支援</p> <p>②地域協働本部との連携した活動の継続</p> <p>【課題】</p> <p>①不登校児童の個別支援の多様化、別室登校室の運営</p> <p>②教員の働き方改革の限界</p> <p>③通常学級における合理的配慮</p> <p>④学校運営協議会・PTA との学校問題解決に向けての連携</p> |
|---|

以上のとおり報告いたします。

令和6年3月31日

多摩市立永山小学校 校長 向井 美紀

公印

令和5年度 学校評価書



多摩市立永山小学校